ご入居者が主体となるコミュニティ作り

～コロナ禍で行事が中止・縮小される中で
入居者同士の交流の場をどのように持つか～

佐倉〈ゆうゆうの里〉　白石　幸子

令和２年２月中旬より
コロナ禍の影響を受け

人が多く集まるような **３密**

施設行事は
中止・縮小開催

施設行事を行う目的

- 閉じこもりを防止し、単調になりがちな生活を防ぐ
- 季節を感じる
- 感動することで脳を刺激し、病の予防効果につなげる
- ご入居者や職員が集まることで会話をするきっかけ

参考文献：介護の便利帳　山下優子

周囲とのコミュニケーションを活性化させる

ご入居者や職員が集まることで会話をするきっかけ

周囲とのコミュニケーションを活性化

ご入居者同士が
関わることが出来る
交流の場を提供

交流の場を
提供できるのか

コロナ禍の中
大人数で集まることなく

人材バンク

サークル活動

仕組みを活用しながら**交流の場**を持つ

方法

①人材バンクの登録者に情報やアイデアを提供してもらう

②各サークルのリーダーに感染予防のため中止していた
サークル活動の再開を提案
感染予防を考慮し どのようなことなら出来るか、支援していく

③経過状況
参加されたご入居者、コロナ禍に入居された新ご入居者に
聞き取りを行う

収集期間

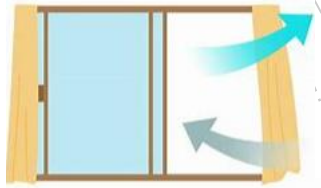
- ２０２０年３月～２０２１年１月

対象

- ご入居者　全員

結果

① １回目の緊急事態宣言が解除された６月より活動



人材バンク

- 書道サークルの立ち上げ（Ａ様）
- 図書係の募集（Ａ様）
- 英語の勉強会（Ｂ様）
- 茶道教室（Ｃ様）

サークル活動

- ルール作り
  手指や道具の消毒、換気、活動人数の制限（１０名以下）
- 人数が多いサークル
  グループ分け、時間の短縮（前半後半に分ける）
- 感染予防を考慮した道具の見直し
  道具の使いまわしをしない（個人で道具を準備）

活動が始まってから

- 感染予防が行えているか見回り→行えていた
- 各サークル参加者への聞き取り→相談あり

相談の一例（問題点）	方法　結果
・グループ分けしたことで考えの食い違いが出てきた。 行う楽しみを優先していたが激しく点数を競うようになった）	・グループの代表者が集まり意見交換をした（活動の主旨を再確認した） ・サークルのリーダーが各グループに交代で参加した（全体が見えるようにした）

結果

・ご入居者同士で話し合うことが増えた
・リーダーがサークルをまとめ問題を解決

主体性を持ち活動

市内で感染者が増えると・・・
・活動方法を見直す
・活動中止再開の判断はご入居者から

サークル・勉強会は３５ 組中、 ２６ 組活動

ご入居者の協力で

交流の場を設けることが出来た

コロナ禍に入居された新ご入居者

・行事がなく交流の場を持てない

↓

・オリエンテーションで積極的に案内

↓

・各リーダーと受け入れについて
打ち合わせ、職員が一緒に見学

サークルのリーダーから
「早く馴染めるように案内してあげて」

新入居者懇親会

「詩吟の仲間に入り、楽しんでます。ずっといたような気分」

新ご入居者３２人中、２０人　**６割 の方が参加**

サークル活動での受け入れが

コミュニティの

ソフトランディングを可能

考察

・人材バンクの登録内容やサークルの活動状況、
ご入居者のニーズなどを把握し、その情報を生かす

コロナ禍で施設行事が中止、縮小されていても
ご入居者同士で交流の場を持てる

職員のほんの少しの手伝いや提案で
ご入居者自身が問題をその都度解決

主体性を引き出すことが重要

結論

ご入居者へ目を向け

ご入居者自身を知ること

幅広い知識や見聞があるご入居者の**協力を得る**

コミュニティづくりには
大切であり必要

課題

活動を発信していなかった

コミュニティブログを活用
生き生きとした様子を発信

参考文献：介護の便利帳　山下優子